

宮崎県の汽水域から得られた トウガタガイ科 *Pseudocingulina* 属貝類の 1 種 – ヨコイトカケギリモドキ (新称) –

三浦知之

〒 880-0035 宮崎市下北方町平田

Abstract

A pyramidellid mollusk species was recorded from the river mouth sandy tidal flat of the Kumano-gawa river in Miyazaki Prefecture, Southern Kyushu: *Pseudocingulina* aff. *terebra* (Dunker, 1860). This species has 7 cords on the shell base and narrow intercostae of the body whole, thus differ from other Japanese species of the genera *Cingulina* and *Pseudocingulina*.

はじめに

主に宮崎県と鹿児島県の海岸生物として出現するトウガタガイ科貝類を継続的に調査し、宮崎県総合博物館に標本を登録するため、整理を進めている (三浦, 2023a & b). 本稿では宮崎県で採集された *Pseudocingulina* 属の 1 種を報告する。

材料と方法

材料は、2009 年に宮崎県門川町庵川東入り江で採集し、生きた状態で持ち帰って、可能な限り軟体部を観察した。また、超音波洗浄機を用いて付着物を除き、70% Alcohol に保存して、殻の形態を観察した。また、2023 年に延岡市熊野江川および宮崎市一ツ葉入り江からもよく似た貝類が得られ、比較検討した。

トウガタガイ科 Pyramidellidae Gray, 1840

Odostomiinae P. Pelseener, 1928

***Pseudocingulina* Nomura, 1936**

ヨコイトカケギリモドキ *Pseudocingulina* sp.

(Figs. 1A–E)

Turbonilla aff. *terebra* Dunker, 1860, p. 239.

採集記録 2009 年 6 月 7 日宮崎県門川町庵川東入り江アマモ場 (1)。

比較標本 (Figs. 1F & 2A–E) 2023 年 6 月 16 日延岡市熊野江川河口干潟滞筋 (1); 2023 年 7 月 4 日宮崎市一ツ葉入り江砂嘴南側砂質海岸転石裏 (1+1 死殻)。

形態・分布・生態 庵川東入り江から得られた生貝は、殻高 8.6 mm, 殻幅 2.1 mm であった (Fig. 1A)。胎殻は、2 階で、殻軸に対して 120° 異旋する (Fig. 1D)。後生殻は螺層 12 階で、殻は白く、やや厚い。螺層は次体層で幅に対して高さが約 60% で、細長い。螺層に色帯等はなく、単純な尖塔形の貝である。後生殻第 1 層に 2 本、他の螺層には 3 本の太い螺肋があり、第 1 の螺肋がやや細く、第 2 肋と第 3 肋はほぼ同じ太さである。加えて、第 3 肋と縫合の間に極めて細い螺肋があり、体層に近づくにつれて太く、明瞭になり、体層では第 3 肋の 1/2 以上の太さになる (Figs. 1A & C)。肋間は、狭く、螺肋の 1/2 程度の幅で、体層では 1/3 になり、細かい縦脈がある (Fig. 1C)。殻底には螺肋とは明らかに異なる非常に細い 7 本の螺条が確認される (Figs. 1A–C)。殻口は扇型で、直線的な内唇と殻底のラインが角張り、外唇は円弧状である。軸唇はやや厚く、弱い単一の瘤状部が見られるが (Fig. 1C)、位置や形態から、軸褶とは判断できなかった。殻は原核から後生殻第 6 階付近までの太く短い円錐と第 7 階以後の細長い円

Miura, T. 2023. Pyramidellid mollusk species recorded from a river mouth tidal flat in Miyazaki Prefecture, Japan –*Pseudocingulina* aff. *terebra* (Dunker, 1860)–. *Nature of Kagoshima* 50: 81–83.

☑ TM: Hirata, Shimokitakata-machi, Miyazaki, Japan (e-mail: miurat@cc.miyazaki-u.ac.jp).

Received: 26 September 2023; published online: 28 September 2023; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_050/050-016.pdf

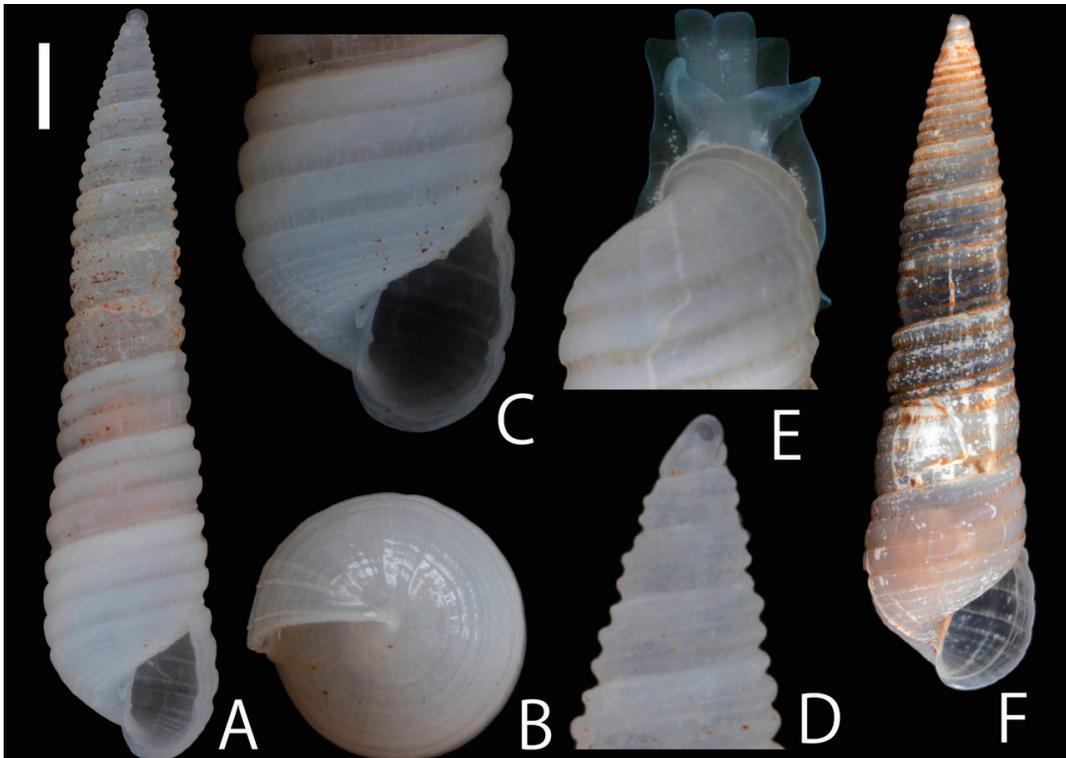


Fig. 1. *Pseudocingulina* aff. *terebra* (Dunker, 1860): A. Specimen from Iorigawa inlet, Kadogawa Town, ventral view; B. Enlarged shell base of the same; C. Enlarged body whole of the same, ventral view; D. Enlarged apex of the same, showing the protoconch; E. Anterior soft body of the same, dorsal view; F. Large living specimen of *P. terebra* (Dunker, 1860) collected from the Kumanoe-gawa River, Nobeoka City, ventral view. Scale for A & F = 1 mm.

錐を接合したような形で、殻の側縁が2本の直線からなる折れ線のようになる (Fig. 1A).

軟体部は半透明で、頭部触角は三角錐状で中央部がやや高く、前方に広い翼状の張り出しおよび後方にやや狭い張り出しがある (Fig. 1E). 触角先端の繊毛瘤は不明瞭で、先端はやや尖る。眼は確認することができなかった。触覚基部、腹足および口吻基盤には、白色腺状の斑紋が散在する。口吻基盤は細長く伸び、先端中央に浅い窪みがあり、左右および中央部の端がやや丸い長方形をなす。腹足は匍匐状態で先端が直線的で、角の丸い長方形となる。次体層内側に黄を帯びた白色と黒色の外套器官と思われる部分を確認したが、殻が不透明で詳細は不明である。

本種に類似し、比較した標本は、一ツ葉入り江の死殻と熊野江川河口干潟で得られた生体である。一ツ葉入り江の大型の死殻 (Fig. 2A) は、殻高 5.7 mm、殻幅 1.5 mm、熊野江川の標本 (Fig.

1F) は、殻高 7.8 mm、殻幅 2.1 mm であった。前者は三浦 (2023a) でヨコイトカケギリダマシ *Pseudocingulina terebra* (Dunker, 1860) とした小型個体と同時に得られた。殻形態を精査したところ、殻底の螺条がやや太い4本であり (Fig. 2E)、ヨコイトカケギリダマシ大型個体の死殻であると考えられた。また、熊野江川の生体は、殻の概形 (Fig. 1F) がヨコイトカケギリモドキ (Fig. 1A) とよく似ている。しかし、殻底の螺条が5本で (Figs. 2C, D)、軟体部には大きな1対の眼があり、その間は眼 2.5 個分離れており、一ツ葉の死殻と同様にヨコイトカケギリダマシと同定された。

本研究のヨコイトカケギリモドキ、大型のヨコイトカケギリダマシおよび三浦 (2023b) で示した大型のヨコイトカケギリ *Cingulina circinata* A. Adams, 1860 の標本は殻の概形がよく似ている。しかし、ヨコイトカケギリダマシは殻底の螺条が本種より幅広く、数が少なく (4本程度)、別種

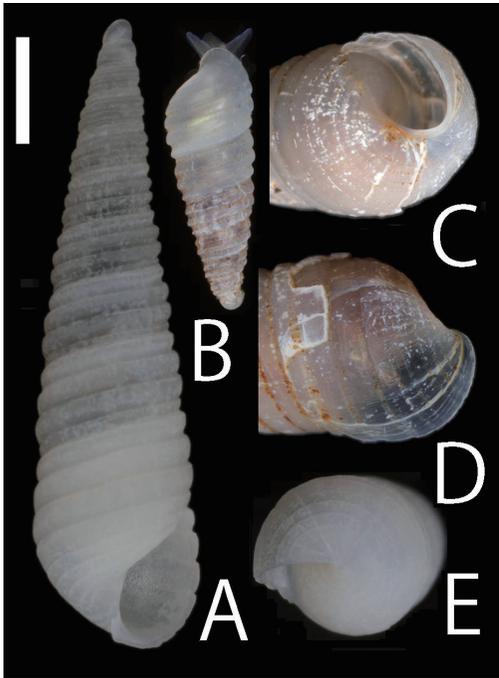


Fig. 2. *Pseudocingulina terebra* (Dunker, 1860): A. Dead shell specimen from Hitotsuba inlet, Miyazaki city, ventral view; B. Living specimen from the same site; C. Enlarged body whole of the specimen (Fig. 1F) from the Kumano-gawa river, ventral view; D. The same, dorsal view; E. Enlarged body whole of the specimen (Fig. 2A) from Hitotsuba inlet, bottom view. Scale for A & B = 1 mm.

と考えられた。また、ヨコイトカケギリは殻底の螺条が7本であるものの、体層でも肋間が螺肋より広く、別属とされる。

ヨコイトカケギリダマシ属では、本種、アダムズヨコイトイトカケギリ *Pseudocingulina adamusi* (Yokoyama, 1920)、およびオンジュクヨコイトカケギリ *P. onzikuensis* (Nomura, 1938) では、第4螺肋が他の螺肋より細いことが知られる(堀, 1996)。しかし、これら2種では殻底に螺条がないため、本種と区別される。

庵川東入り江は Salinity がほぼ 10–30‰ で変動し(三浦ほか, 2012)、淡水流入域に近い場所からヨコイトカケギリモドキが採集された。また、

熊野江川のヨコイトカケギリダマシは河川本流に繋がる滞筋で採集され、Salinity は 19‰ と実測された。ただし、熊野江川河口干潟全体では 0.7–32.6‰ で変動する(梅本・三浦, 2009)。両種は汽水域で大型化するのかもしれないが、記録が少ないため、今後とも検討が必要である。

本稿では、前報(三浦, 2023a)に続き、ヨコイトカケギリダマシ属の1種として、殻底螺条が7本で大型になるヨコイトカケギリモドキを紹介した。今後、新しい知見が集積できることを期待し、ここでは他種との差異を記録した。

引用文献

- Adams, A., 1860. On a new genus and some new species of Mollusca from Japan. *Annals and Magazine of Natural History*, 6(3): 414–422.
- Dunker, W., 1860. Neue japanische Mollusken. *Malakozoologische Blätter*, 6: 221–240.
- 堀成夫, 1996. 萩市郷土博物館所蔵の山口県北部地方産トウガタガイ科貝類(軟体動物門:腹足綱:異旋目)の再検討. *Yuriagai, Journal of the Malacozoological Association of Yamaguchi*, 4(1/2): 139–162.
- 三浦知之, 2023a. トウガタガイ科 *Pseudocingulina* 属貝類の記録 – ヨコイトカケギリダマシとミスジヨコイトカケギリ –. *Nature of Kagoshima*, 50: 71–74.
- 三浦知之, 2023b. トウガタガイ科 *Cingulina* 属貝類2種の記録 – ヒロヨコイトカケギリとヨコイトカケギリ –. *Nature of Kagoshima*, 50: 75–79.
- 三浦知之・三浦要・富岡宏・佐伯めぐみ・三橋利恵, 2012. 宮崎県門川町庵川アマモ場とその周辺に出現する貝類, 甲殻類および腕足類. *宮崎大学農学部研究報告*, 58: 51–68.
- Nomura, S., 1938. The third report on Pyramidellidae based upon the specimens preserved in the collection of the Saito Ho-on Kai Museum. *Saito Ho-on Kai Museum Research Bulletins*, 16: 1–88, pl. 1–15.
- Pilsbry, H. A., 1904. New Japanese marine Mollusca: Gastropoda. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, 56: 3–32.
- 梅本章弘・三浦知之, 2009. 延岡市熊野江川河口干潟に出現する貝類と甲殻類. *宮崎大学農学部研究報告*, 55: 37–49.
- WoRMS, 2023. <<http://www.marinespecies.org>> (2023. 7. 9)
- Yokoyama, M., 1920. Fossils from the Miura Peninsula and its immediate North. *Journal of the College of Science, Imperial University of Tokyo*, 39: 1–193, pls. 1–20.